

### 3. 『大谷大学図書館所蔵貝葉写本目録』 の一部補遺・訂正

吉元信行・長崎法潤

#### 1. 『MAJJHIMA-NIKĀYA』 phuuk 1 への異テキストの混入

『目録』 p. 136 記載の 2.2 MAJJHIMA-NIKĀYA <M> phuuk 1 (請求番号：VII-1) の巻末は、項目13. 備考によると「M. I 19, <sub>30</sub>」のはずであるが、項目9. 巻末クメール文字文の内容は、明らかに <M> のものとは異なっている。この写本原本で確かめてみると、それ以前の葉に記されているものより文字の濃さが薄く、前葉までは両面に文字が書かれているのに本葉は片面だけに4行のみ刻字され、フォリオ番号はない。そして、13. 備考覧記載の M I 19, <sub>30</sub> の内容は前葉の最後にある。したがって、本葉は明らかに異テキストの混入であることがわかる。本葉の4行をローマナイズすると次の如くである。

issāmaccherakukkucehi mānena ca saddhiṃ kadāci taditarasasaṃ-  
khārikacittasampayogakāle taṃsāmpayogakālepi vā mānā ca  
phāyatiti yojanā daṭṭaṇca/ ... (中略) ..... kevalaṃhettha niyatavasena  
cittuppādesu yathārahaṃ labbhamāna tesaṃ ma

この内容を BCR で調べると、Abhidharmatthavibhāvinī (Abhidharmatthasaṅgahaṭikā = Abhidh-s-mhṭ) タイ版 p. 112, <sub>2-11</sub> に相当する。ところが〈大谷パーリ貝葉〉には Abhidharmatthasaṅgahaṭikā もあり、この部分はその XL, phuuk 2. ghe. v. ll. 1-5. (『目録』 p. 533) に相当する。ただし、この Ṭikā 相当部分には、上記下線部分の tesaṃ ma はないので、誤写と思われる。これらのことから、本葉は本写本作成の段階で、最後に白葉を入れるとき、誤って片面が白葉で書き損じの Abhidharmatthasaṅgahaṭikā の一葉が混入したと思われる。したがって『目録』のこの頁の記載を次の如く訂正しておきたい。

p. 136, l. 37 : r. l. 4 のみ異筆。→ r. 4. l. s. のみ異筆。

l. 40 : M. I 1, <sub>4</sub> - 19, <sub>30</sub> → M. I 1, <sub>4</sub> - 19, <sub>30</sub> (巻末の前葉 : khaḥ まで)。  
筆写された最終葉は他のテキストの混入であり、内容は Abhidh-s-mhṭ. 112,

2-11 (BCR) である。本目録 p. 533 参照。

## 2. 『目録』の正誤・補遺

ABBREVIATIONS p. lxix, l. 20 の次に挿入

Pālim *Pālimuttaka-vinaya-viniccaya-saṅgha, (Mahā-) Vinaya-saṅgha-pakarāṇa* (: Sāriputta of Poḷonvaruva, PLC 190-192, *Piṭ-sm* 260.)

BIBLIOGRAPHY p. lxxv l. 13 の次に挿入

Komuro, S. (小室重弘)

1903: 『釈尊御遺形伝来史』東京・細川芳之助

TABLE OF CHARACTERS AND NUMBERS LanNa,

p. lxxxix の na と bha に相当する文字はそれぞれ ma と dha に重複している。na と bha の実際の文字については、柏原信行「大谷大学所蔵のユアン文字貝葉」(パーリ仏教文化学第2号 p. 87) を参照されたい。

\*

p. 121 l. 36: 22, <sub>23</sub> → 21, <sub>2</sub>,

l. 37: 17, <sub>4</sub> → 16, <sub>12</sub>

p. 122 l. 34: Sv I 22, <sub>24</sub> → Sv I 21, <sub>3</sub>,

l. 35: SHB IV 17, <sub>5</sub> → 16, <sub>13</sub>

p. 138. 項目13. 備考 M I 85, <sub>8</sub> - 99, <sub>14</sub> → M I 85, <sub>8</sub> - 99, <sub>13</sub>

p. 139. 項目13. 備考 M I 99, <sub>14</sub> - 115, <sub>25</sub> → M I 99, <sub>13</sub> - 115, <sub>25</sub>

p. 142. 項目13. 備考 M I 173, <sub>5</sub> - 194, <sub>10</sub> → M I 152, <sub>24</sub> - 171, <sub>8</sub>

\*

下記は記入漏れにつき追加

p. 687 1. 2, 1 SAMANTAPĀSĀDIKĀ

7. 貝葉形態

e) 記入行数: 1 行

f) 記入寸法: 13.5×2.0 cm

h) 文字密度: 13文字/10 cm

p. 701 2. 5, 10 GAṄGEYYA-JĀTAKA7. 貝葉形態

e) 記入行数：1行

f) 記入寸法：32.5×0.6 cm

h) 文字密度：14文字/10 cm

p. 701 3. I, 1 ATTHASĀLINĪ

7. 貝葉形態

e) 記入行数：1行

f) 記入寸法：15.0×1.0 cm

h) 文字密度：17文字/10 cm

\*

表題、巻頭、巻末の「画像は原寸の2分の1である」点は、解説と INTRODUCTION pp. xlvi, lviii に述べられているが、凡例と EXPLANATORY REMARKS の 1. 8. 9 pp. lxiii, lxiv, lxvii, lxviii には記されていない。

また、「紙幅の都合上、各画像は適宜改行されている。改行に際しては、各行間は原寸には比例していない。」点も触れられていない。

\*

p. 694, l. 2 の

13. 備考：“Mahāparinibbāna-suttanta” (D II 72f) とは別のものである。を、下記のように訂正・追補。

13. 備考：“Mahāparinibbāna-suttanta” (D II 72f) や Hallisey 1993 とは別のものである。

pp. 702-711 の、「11. 内容細目」中の ‘Nissaya’ は ‘nissaya’ に改めるべきである。